

社会福祉法人 光の児童福祉会

2019(令和元)年度の主な事業報告

第一光の子保育園

最大190名(定員200名)の子どもたちを保育

第二光の子保育園

最大141名(定員120名)の子どもたちを保育

角田光の子保育園

最大147名(定員140名)の子どもたちを保育

1. 保育士確保問題

今年度末の時点で、第一光の子保育園、第二光の子保育園を退職した保育士が合わせて8名となつてしまいましたが、確保することができた保育士は、その半分にも満たない状況となっております。幸い、昨年4月に開園した角田光の子保育園ほうは、退職した保育士は誰もおりませんでした。結果として、第一光の子保育園も、第二光の子保育園も、保育士の数が足りない状態の中での新年度を迎えての保育となつてしまいました。そのため、どちらの保育園も0歳児の入園を制限しての保育を余儀なくされています。そのような厳しい保育士確保問題を抱える中で前年度の保育を終え、新年度を迎えています。

いずれにしても、こうした保育士不足の問題は、当法人の施設に限られたものではなく、全国的な問題となっており、国でも県でもその対策を考えてはおられるようですが、昔ながらの給付費(運営費)には地域区分(仙台は上から6番目、仙台市以外の地域は18番目のその他の地域)があるため、東京を中心とした関東圏や仙台市のような政令指定都市などとの給付費の額の違いがあることと、それに伴って給与水準の高い地域にますます保育士が流れてしまう傾向となつてしまっていることから、この傾向は、今後、より深刻な事態を生じさせるものと思っております。しかも、保育士確保のために、東京都を始めとした財政的規模の豊かな市や町においては、さらなる給与の上乗せや住居費等の対応が既になされたり検討されたりしているのに対して、当法人の施設があるような地域では、何らの対策も講じられていないだけでなく、「給与だけの問題ではない」との考えが根強く、何らかの対策が講じられる見込みもないように見受けられる状態が続いております。まったく解決の糸口が見えないものとなっております。そうした厳しい現状の中にあっても、保育を継続するため、前年度に引き続き、様々な保育士確保の取り組みを為して行く予定でおります。

○2020年度に実施したもの

- ・様々な求人誌の活用(国井印刷のコミュニティーアイへの掲載)
- ・独自の求人パンフレットの作成(株式会社 日新よつての施設紹介パンフレット作成)
- ・養成校との緊密な連携(福島・宮城県内の養成校を訪問)

2. 第一・第二・角田光の子保育園の報告(建物・設備等の修繕等)

・ 第一光の子保育園

前年度においては、大きな修繕・補修の箇所はなかったが、園舎が築8年を経過することから、様々な修繕・修理箇所が出てくるのが予想される。

・ 第二光の子保育園

前年度においては、大きな修繕・補修の箇所はなかったが、園舎が築15年を経過することから、様々な修繕箇所が出てくるのが予想されると共に、設備関係も既に耐用年数を越えていることから、順次、その対応が必要になってきている。

第二光の子保育園は、元々90名定員の補助金で施設整備をした園舎であることから、当初予定していた使い方ができない中での保育となっている。そうしたことから、待機児

解消後には、定員を90名に戻すことを考える必要があるように思われる。

- ・ 角田光の子保育園

前年度は、開園したばかりの施設であったことから、細々とした備品等の購入が必要になることが多い年となった。

また、強風が当たる場所に園舎を建てたことから、組み立て式のプールが強風にあおられて、隣接地まで飛ばされた際に、フェンスの一部を破損し、プールそのものと共にフェンスの修理が必要な状況となってしまった。

○2019(令和元)年度4月以降の在園児状況
月別在籍園児数(公定価格別)

第一光の子保育園

(定員200名)

2019年	0歳児	1歳児・2歳児	3歳児	4歳児・5歳児	合 計
4月	4	48	31	94	177
5月	5	48	31	94	179
6月	5	47	31	94	177
7月	6	48	31	94	179
8月	6	49	34	95	184
9月	6	50	36	95	187
10月	7	51	36	95	189
11月	8	51	37	95	191
12月	8	51	37	95	191
1月	8	50	37	94	189
2月	8	50	37	94	189
3月	9	49	37	94	189
延人数	80	592	415	1,133	2,221
月平均	6.67	49.34	34.59	94.42	185

2020年	0歳児	1歳児・2歳児	3歳児	4歳児・5歳児	合 計
4月	4	53	40	78	175
5月	4	53	40	79	176
6月	4	53	40	79	176

第二光の子保育園

(定員120名)

2019年	0歳児	1歳児・2歳児	3歳児	4歳児・5歳児	合 計
4月	4	43	26	58	131
5月	5	43	28	58	134
6月	6	46	28	58	138
7月	9	45	28	58	139
8月	9	45	28	58	139
9月	9	45	28	58	139
10月	9	44	28	58	139
11月	9	45	28	58	140
12月	9	45	27	58	139
1月	9	45	27	58	139
2月	9	45	27	58	139
3月	9	45	27	58	139
延人数	96	536	330	696	1,655
月平均	8	44.67	27.5	58.00	137.92

2020年	0歳児	1歳児・2歳児	3歳児	4歳児・5歳児	合 計
4月	5	42	28	53	128
5月	5	42	28	53	128
6月	6	43	28	53	130

角田光の子保育園 (2019年 4月開園)

(定員140名)

2019年	0歳児	1歳児・2歳児	3歳児	4歳児・5歳児	合計
4月	10	48	30	57	145
5月	10	48	30	57	145
6月	12	48	30	57	147
7月	12	48	30	57	147
8月	12	48	30	57	147
9月	12	48	30	57	147
10月	12	48	30	57	147
11月	12	47	30	57	146
12月	12	46	30	57	145
1月	15	47	30	56	148
2月	15	48	30	56	149
3月	15	48	30	56	149
延人数	149	572	360	681	1,762
月平均	12.42	47.67	30.00	56.75	146.34

2020年	0歳児	1歳児・2歳児	3歳児	4歳児・5歳児	合計
4月	11	48	29	55	143
5月	11	48	29	55	143
6月	11	48	29	55	143

社会福祉法人 光の児童福祉会
2020(令和2)年度主な事業計画

○2020(令和2)年度の主な事業計画(短期事業計画)

①保育士確保問題

- ・ 第一光の子保育園
今年度末の時点で、正職・臨時の保育士が5名が退職するものの、新たに3名の者を正職・臨時職員として採用した。さらに、2名の者を採用する予定。
- ・ 第二光の子保育園
今年度末の時点で、正職・臨時の保育士が3名が退職するものの、1名の臨時職員を採用した。
- ・ 角田光の子保育園
今年度末の時点で、角田市よりの派遣職員2名が1年間の任期を終えて戻ることとなるものの、その内の1名の職員については、角田市職員を退職して、当法人の職員として勤務することとなったと共に1名の正規職員を採用した。
- ・ 対応策：
 - a. 様々な求人誌の活用
 - b. 独自の求人誌の作成・配布
 - c. 養成校との緊密な連携(第一光の子保育園の園長を中心にして)

この保育士不足の問題は、当法人の施設に限られたものではなく、全国的な問題となっており、国でも県でもその対策を考えてはいるようだが、昔ながらの給付費(運営費)には地域区分(仙台は上から6番目、仙台市以外の地域は18番目のその他の地域)があるため、東京を中心とした関東圏や仙台市のような政令指定都市などは給付費の額が高く設定(子ども一人あたり1万円以上)されており、それに伴って給与水準の高い地域にますます保育士が流れてしまう傾向となっている。この傾向は、今後、より深刻な事態を生じさせることが予想される。しかも、保育士確保のために、東京都を始めとした財政規模の豊かな市(仙台市、大崎市、岩沼市)や町(亘理町等)においては、さらなる給与の上乗せが既になされたり検討されたりしているが、当法人の施設があるような地域では、何らの対策も講じられていないだけでなく、「給与だけの問題ではない」との考えから対策を講じる予定もなく、まったく解決の糸口が見えないものとなっている。

さらに、この公定価格の地域区分については、さらなる見直しがなされることになっているが、そのことが見直しがなされない地域においては、悪影響が様々出てくることが予想されている。

②各施設の経年劣化に伴う補修・改修等

- ・ 第一光の子保育園
園舎が築8年を経過することから、様々な修繕箇所が出てくることが予想されると共に、設備関係も耐用年数を越え始めていることから、そのことへの対応を順次して行く予定。
- ・ 第二光の子保育園
元々と90名定員の補助金で施設整備した園舎であることから、建築当初予定していた使い方ができない中での保育となっていることから、待機児解消後に定員を90名に戻させていただけるとお願いして行く。
2005年2月に引渡しを受けた園舎であることから、築15年を経過しているため様々な修繕箇所が出てると共に、設備関係も耐用年数を越えていることから、そのことへの対応を順次して行く予定。
- ・ 角田光の子保育園
開園したばかりの施設であることから、細々とした備品等の購入が必要になっている。

③第一・第二光の子保育園の認定こども園(保育所型)への移行手続き

- ・ 第一光の子保育園
園舎の状況を見ますとき、第一光の子保育園の園舎の最低基準上を満たす収容人数としては最大限250名の乳幼児を受け入れることができるにもかかわらず、保育士不足の問題は

あるものの、まだまだ受け入れることができるものとなっている。そこで、認定こども園に移行することで、1号認定(幼稚園利用)の3歳児・4歳児・5歳児を受け入れることができる施設とする(手続き)。

- ・第二光の子保育園

第二光の子保育園としましては、国の幼児教育・保育政策の中心が、認定こども園になりつつあることと、保育園(所)のままでは教育的な位置づけが曖昧なままであること理由から、国の幼児教育・保育政策の中心にありつづけるためにということを考えてのものです。幸い保育士資格と幼稚園教諭との資格からなる「保育教諭」については、未だにその取り扱いについての議論がなされてはおらず、猶予期間となっていることから、早急に認定こども園への移行が必要になっている。そこで、認定こども園への移行手続きを進める。

- ・角田光の子保育園

角田市の要請により、当分の間、認定こども園への移行はしない。

認定こども園の状況について簡単に記しますと、認定こども園への移行は著しく、ワースト4の県となっている宮城県においては、実感として感ずることはないものと思われるが、他県においては幼稚園が全て認定こども園に移行している状況さえ出てきている。2、3年後には、間違いなく1年間に卒園する園児の数では、幼稚園の卒園児の数を上回るとされている。

また、少子化傾向も激しく、東北六県の青森県や秋田県、岩手県の中心部以外では、5年前の数分の一の出生数となっており、その年に生まれた20数人の乳児を、5、6箇所の保育園が定員を減らして受け入れたとの話もある。

○2020(令和2)年度以降の主な事業計画(今後10年間の長期事業計画)

- ・第一光の子保育園の旧園舎の取り壊しと跡地の整地(宗教法人所有地)

第一光の子保育園が現在の場所に移転してから8年を経過することになるが、旧園舎の跡地については、現在もなおそのままとなっていることから、旧園舎の取り壊しと跡地の整地のための準備を始めることとし、5年後の2025年には、その事業を行いたいと考えている。その頃には、オリンピックに伴う建築費の高騰等も落ち着いてくるものと思われる。

- ・具体策：

- a. 旧園舎の取り壊しと跡地の整地のための準備資金の用意。
- b. 整地の仕方について、宗教法人との協議を進める。

- ・第一光の子保育園、第二光の子保育園、角田光の子保育園の保育の見直しと保育の質の向上のための取り組み

今後、益々、少子化の傾向が顕著なものとなることから、保護者から選ばれる保育園となるためにも、保育園に預けられている乳幼児のより良き保育のためにも、保育の見直しと質の向上のためのプログラムを持つ。

- ・具体策：

- a. 宮城学院大学・宮城教育大学、東北大学の先生方による指導。
- b. 全国的に著名な保育関係の先生方をお招きしての学びの時をもつ。
- c. 岩沼福祉会の岩沼保育園を含む四保育園(施設)間の人事交流。